

会派視察研修計画書

平成29年 6月30日

碧南市議会議長 様

会派名 公明党

代表者名 加藤 厚雄

下記のとおり、視察（研修）を計画したので届け出ます。

参加議員	加藤 厚雄・大竹 敦子		
日 時	平成29年8月7日（月）～平成29年8月9日（水）		
視 察 先	8月7日（月）	新潟県長岡市	
	8月8日（火）	富山県富山市	
	8月9日（水）	石川県金沢市	
研 修 内 容	長岡市・・・中越大震災の経験を活かした防災体制の強化について 富岡市・・・お迎え型病児保育事業について 金沢市・・・小中一貫英語教育について		
日 程	8月7日（月）	新潟県長岡市	13：30～16：30
	8日（火）	富山県富山市	13：30～15：30
	9日（水）	石川県金沢市	10：00～11：30
交 通 手 段	公共交通機関利用 乗降車駅名（ 碧南中央駅 ）	自家用車利用 _____台 所有者名（ _____ ）	

会派視察研修報告書

平成29年 12月19日

碧南市議会議長 様

会派名 公明党

代表者名 加藤 厚雄

下記のとおり、視察（研修）を計画したので届け出ます。

参加議員	加藤 厚雄・大竹 敦子
日 時	平成29年8月7日（月）～平成29年8月9日（水）
視 察 先	8月7日（月） 新潟県長岡市 8月8日（火） 富山県富山市 8月9日（水） 石川県金沢市
研 修 内 容	長岡市・・・中越大震災の経験を活かした防災体制の強化について 富岡市・・・お迎え型病児保育事業について 金沢市・・・小中一貫英語教育について
視察先面会者 又は講師名等	長岡市一防災管理室主査 杉田様 富山市一こども家庭部こども支援課 青山哲也課長代理 富山市まちなか総合ケアセンター 水野智主観所長代理 金沢市一学校教育部学校指導課 村田昌人課長 同課 竹内美由紀指導主事
備 考	

視察研修成果報告書

平成29年12月19日

議員氏名 加藤厚雄

視察（研修）に参加したので、下記のとおり成果を報告します。

記

- 1 期 間 平成29年8月7日（月）～平成29年8月9日（水）
- 2 視 察 先 新潟県長岡市 富山県富山市 石川県金沢市
- 3 視察の種類 会派視察
- 4 視察の成果等

長岡市 中越大震災の経験を活かした防災体制の強化

平成16年の中越大震災の経験を活かし、「日本一災害に強いまち」を目指す、長岡市の防災体制の取組を視察し、教訓を生かした防災体制の高さに驚かされた。今後の防災体制強化の道しるべとして「長岡市防災体制強化の指針」を作成し、地域の防災リーダーを育成する中越市民防災安全大学の開校や緊急告知FMラジオの貸与をはじめとする災害情報伝達体制の整備など具体的な事業を実施している。特に河川監視カメラ等、各種システムを取り入れた、専用の災害対策本部会議室の設備には驚かされた。

子育ての駅と市民防災の拠点機能が融合した全国初の施設「ながおか市民センター」では、平常時は防災学習や研修拠点、災害時は災害対応拠点施設となる。施設は全天候型の屋根付き広場で、雨や雪の日でも子どもたちと遊べ、保育士が常駐しているので子育てに関する相談ができる。

富山市 お迎え型病児保育事業

保育所などで急に子どもの体調が悪くなった時、親がすぐに迎えに行きたくても、仕事の都合などで迎えにいけない場合、保護者に代わって、市の看護師と保育士がタクシーでお迎えに行き、かかりつけ医などを受信した後、「まちなか総合ケアセンター」の病児保育室で子どもを預かっている。対象は市内に住所を有し、市内の体調不良児保育事業を実施していない保育所に通っている満1歳以上の未就学児である。

金沢市 小中一貫英語教育

平成8年度より小学校での英語活動に取り組み、平成16年3月に「世界都市金沢・小中一貫英語教育特区」に認定され、同年4月より、小中一貫英語教育を全市立小中学校で行っている。平成21年度からは「教育課程特例校」に変更され、引き続き独自の副読本を用いながら、ふるさと金沢について発信できる英語力を身につけることを目指している。小学校で英語科授業が始まり、中学校入学時には英語で自己紹介ができる。

会派視察研修成果報告書

平成29年 9月29日

議員氏名 大竹 敦子

視察（研修）に参加したので、下記のとおり成果を報告します。

記

- 1 期間 平成29年 8月 7日（月）～平成29年 8月 9日（水）
- 2 視察先 新潟県長岡市、富山県富山市、石川県金沢市
- 3 視察の種類 先進地視察
- 4 視察の成果等

長岡市 中越大震災の経験を活かした防災体制の強化について

1、地域防災計画の見直しについて

「我が家が避難所、だから、強く安全に」ということで、耐震診断、耐震改修の補助、融資制度の周知。地域防災力の強化として、自主防災会が、中越大震災後、結成率が20%から80%に急上昇し、小中学校区で防災訓練が実施されている。救援物資の受け入れの対応は、大量の物資の仕分け・保管が負担になることから、個人からの支援物資は受け取らないことを計画に明記した。救援物資は、協定により必要な被災者に、必要なものを必要な時に必要な量を供給できる体制を整えている。そのうえで、市として、市民が備蓄しにくい非常用発電機、投光器、簡易更衣室、授乳室、携帯トイレ、毛布、車いすなどを整備し、食糧・飲料水などは長期間の保存が難しく財政的負担が多いことから、家族の7日分を市民に備蓄するよう周知している。

災害対策本部機能の強化として、総事業費1億7400万円で、平成24年度、アオーレ長岡に移転し供用開始した。全市300か所に定点カメラを設置し、対策本部室の大型ディスプレイにリアルタイムで映像として見られる総合的な情報を共有できるように整備した。これにより、より適切に迅速な判断が実現した。

- 2、各種災害対応マニュアルを作成。
- 3、市民向け防災パンフレットを作成。
- 4、災害情報伝達体制の整備

「FMながおか」で緊急告知FMラジオの緊急割り込み放送を整備した。緊急放送時は、自動的に電源が入り、最大音量で災害情報を提供する。1万台を無償貸与し、

一般市民には8,640円でラジオを提供。高齢者、障がい者のいる家庭には3,000円補助している。

5、避難所環境の整備

主な避難所が学校施設になることから、あらかじめ、学校アンケートを取り、その結果から市内87の小中学校で平成17年度からの3か年計画で約1億円をかけ、スロープ、トイレの洋式化、受水槽に蛇口の取り付け、LPガスの接続口の設置などの整備をしている。また、物資の受け入れのため、体育館と後者の間には屋根付き広場を整備し、全天候型の対応を可能にしている。学校の新築の際には、このような避難所としての機能もしっかり入れ込んだ設計がされている。

6、中越市民防災安全大学の開講

市民の防災リーダーの育成や教訓を後世に残すため、中越市民防災安全大学を開講し、市民安全ネットワークの形成、「中越市民防災安全士」の認定を推進している。

ながおか市民防災センターについて

これは、「子育ての駅」と「市民防災拠点」機能が融合した施設である。ここは、中越大震災当時、仮設住宅のあった場所で、平常時、屋根付き広場のある建物は、子育て支援、防災学習展示、中越市民防災安全士会などの防災活動拠点になっている。災害時には、ボランティアの活動拠点としてボランティアセンター、物資の一時預かり所として活用される。隣接した防災公園には、緊急ヘリポート、飲料水兼用貯留槽、非常用トイレとして14基の下水道直結のマンホールトイレと貯留式のマンホールトイレ10基が設置されている。

提言

長岡市では、これまでの震災の体験を生かして、これから起きる災害に市民の声を聴いて、最大限に活かしながら、様々な施策を整備していた。学校の避難所としての機能は改修や新築の際には学校施設と同じくらいの割合で避難所としての機能を取り入れていた。備蓄品についても、無駄を抑え、市内にある店舗などの在庫を確認の上で、市で備蓄するもの、市民への備蓄をお願いするものを分けている。本市では、毎年、500万からの食糧などの消費期限が間近なものを市民の防災訓練などの参加賞として配っている。その費用があればもっと避難所の環境整備に充てられるのではないかと感じている。災害時における最大の問題はトイレである。本市においても、避難所となる全学校施設にマンホールトイレの設置の方針が決まり、安心している。自宅においても、ライフラインが中断されていたりすると水洗トイレは使用できなくなるので、簡易トイレの備蓄を推進していただきたい。

富山市 お迎え型病児保育事業について

富山市には、公立、私立を合わせて100園あるが、そのうち40園では、看護師が配置され、保護者のお迎えができなくても、体調不良児の見守りができる体調不良児対応型保育園になっている。

お迎え型病児保育事業は、園に看護師が配置されていない園において、保育所等で子どもが体調不良となった時、保護者が迎えに来られない場合などに、富山市まちなか総合ケアセンター内の病児保育室の看護師と保育士が二人ペアでタクシーで迎えに行き、事前に登録してあるかかりつけ医で受診した後、病児保育室で保育看護して保護者の迎えを待つというものがある。

利用料金は、病児保育室使用料として2,000円、タクシー代の4分の1の金額が自己負担になる。

提言

本市では、病児保育については、ようやく、実施への緒に就いたところであり、それは大変喜ばしいことであり、順調に実現に向けて進むことを願うものである。しかし、先進地では、子どもが体調を崩しても、どうしてもお迎えに行けない保護者の代わりに看護師と保育士が迎えに行ってくれ、かかりつけ医での受診を受けた後、保護者が迎えに来るまでの見守りをしてくれるというところまで来ていることにとっても驚いている。本市においても、病児保育が実施されたのち、現在の病後児保育室の看護師により、富山市のように体調不良児に対応できるように継続していただきたいと思う。

金沢市 小中一貫英語教育について

金沢市では、全ての小・中学校で小中一貫英語教育が実施されている。これまでの経緯としては、平成7年「金沢世界都市構想」策定、次年度、年間10時間の英語教育を小学校に導入、平成13年から3年間、小中一貫英語教育モデル地域に指定される。平成24年、小中一貫英語教育新カリキュラム実施。

小中一貫英語教育の目標は、自分の意見や考え、ふるさと金沢などを表現する英語でのコミュニケーション能力を身に着ける。自分自身の思いを自ら英語で世界に発信できることを目指している。また、市内全域で実施するため、共通の指導基準を作成。

小学3年から6年まで英語科として科目だてし、小学校で約400語、中学校約1400語（指導要領では1200語）の習得を目指す。

小1、2年では、朝のショートタイム15分間を利用して週1で実施、小3～6年では、あさのショートタイムにプラスして45分の授業を週1時間実施。また、金沢市では、市の特徴を生かした内容で独自の教材を作成している。

指導者の育成は、小学校へ市街から転入してきた教員への英語科研修を実施、英語科の夏季研修の実施、ALTによる訪問指導、年間7回の英語インストラクター研修を実施している。

指導体制として、一人年間200万円で2校を兼務する英語インストラクターを小学校に41名配置。中学校では英語科教諭と合わせて12名のALTを配置している。ALTは小学校6年生の授業にもスペシャルゲストとして指導に当たっている。

成果として、中学3年生で、英検3級取得者が47.6%で、全国平均36.1%を上回っている。市街で外国人へ気楽に声をかける子どもたちの姿がよく見かけられる。

提言

金沢市では、基本計画の中に「世界都市」という方針を入れ、英語教育に取り組んできている。英語の教科書も独自のものを作り、指導内容も、金沢市にちなんだ内容が豊富に取り込まれた親しみやすい内容の工夫がとても良いと思った。英語は、低年齢から耳に聞かせることで、より身につけやすくなる。金沢市では、小中一貫英語教育ということで、小学校1年生から週1回朝15分の学習で、無理なく、親しみやすいカリキュラムの中で、導入を英語に親しむことから始めていることに感銘を受けた。週1回たった15分でも大きな成果につながると思う。本市でも、様々に英語教育に取り組んでいただいていると思うが、高学年での英語への苦手意識を持つことなく、英語に取り組むことができることにつながるのではないかと思う。ぜひ、朝の英語のショートタイムを本市でも実施してはどうか。金沢市の子どもたちにとって、英語が学校生活の中に組み込まれていることは、特に、負担にはなっておらず、かえって楽しく取り組んでいるようだ。将来、現代のグローバル化の時代を生きる子どもたちにとって、大変役立つ先進的な素晴らしい取り組みがされていると感じた。